

## 令和5年度ウミガラス保護増殖事業の取組内容（予定）

## (1) 生息状況等の把握

## ① 飛来・繁殖状況の把握

- ・中央巣棚：ビデオカメラ3台（WL・L・Rカメラ）設置。巣内の音声はICレコーダーで録音。
- ・右側巣棚：飛来・繁殖状況を把握するため、インターバルカメラ設置。
- ・巣棚入口：広角のビデオカメラ1台設置。センサーカメラ（1～2秒間隔）を設置し、飛来数のピークを把握。更にインターバルカメラまたはセンサーカメラ（5秒間隔程度）を予備として設置（図1）。
- ・ドローンは、海上の飛来数の把握に用いるなど、随時試行を継続。

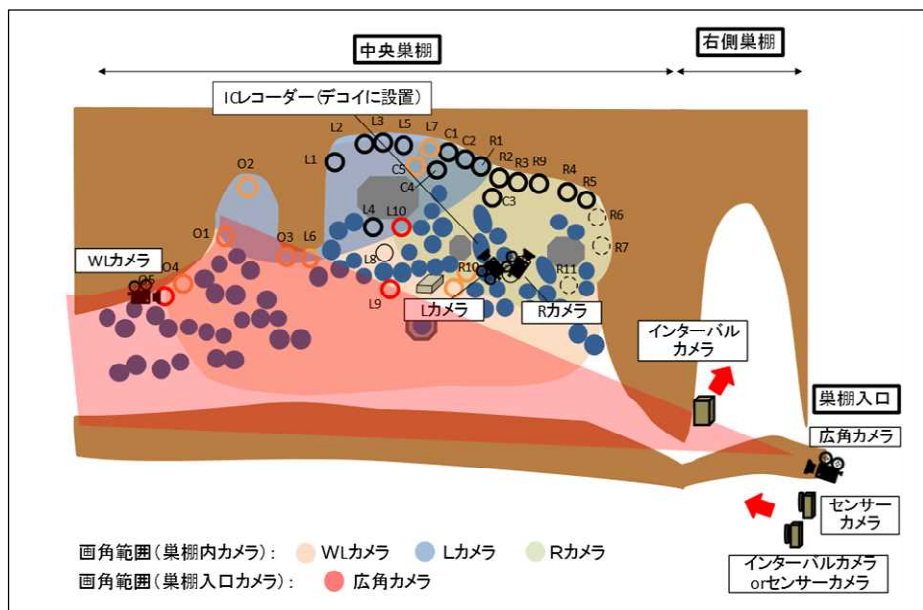


図1 令和5年度のカメラ等設置予定位置

## ② 生態・動態の把握

- ・巣棚内残渣の採取及び遺伝子解析継続（東京農業大学及び葛西臨海水族園と連携）
- ・足環及びデータロガー装着に向けた捕獲手法の検討継続（巣立ちヒナの着水範囲と親鳥の行動把握を行うため、巣立ち時期に赤岩対崖巣棚崖下の海上に向けてカメラを設置することや、捕獲に伴う安全対策について整理を行うことを想定）。

## (2) 繁殖環境の維持・改善

## ① 繁殖環境の整備

- ・捕食者対策も考慮した上で、中央巣棚の内側のデコイ撤去（図2）。なお、右側巣棚及び左側巣棚は現在のウミガラスの飛来・繁殖状況を踏まえ来年度は整備しないことを想定。

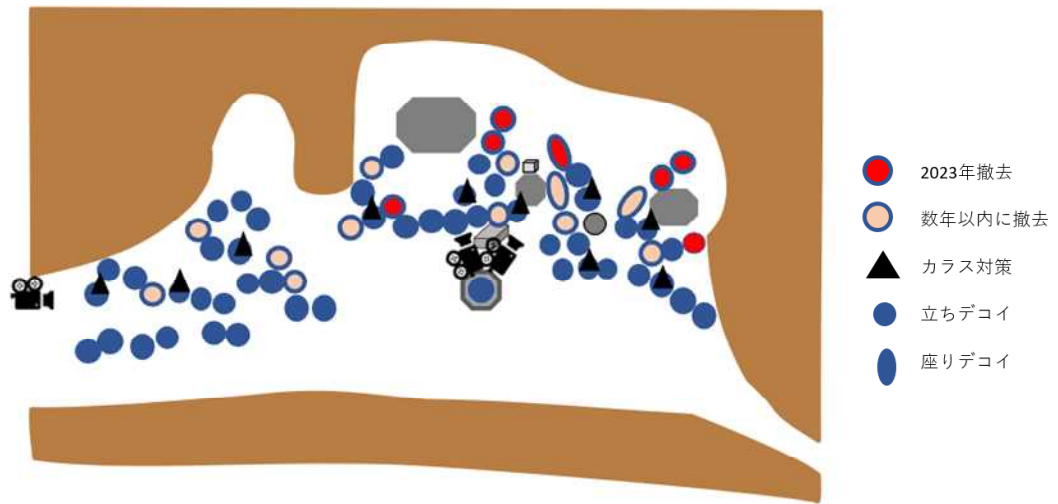


図2 中央巣棚のデコイ撤去及びカラス対策実施予定位置

②誘引対策

- ・機材軽量化に伴う強風の影響を避けるため、音声装置の設置位置変更（モニタリングカメラの電源装置付近への移設を想定、図3）。



図3 音声装置の移設予定位置

### ③捕食者対策

- ・ハシブトガラス：エアライフルによる捕獲（海岸も再開）及び巣落としの継続。更に対策を強化。

#### 【対策強化の例】

##### a. エアライフルの時期・時間帯変更、回数増加

ハシブトガラスが巣棚を訪れる頻度の高い時期・時間帯を中心に、エアライフルで捕獲。また、捕獲実施回数を増加させる。

##### b. デコイにカラスが留まりにくい構造物設置

ハシブトガラスが頻繁に留まるデコイの上に、留まりにくい構造物（ハトプロテクターやインシュロック複数本等）を設置する（図2、4）

##### c. 巣棚周辺における罠設置

過去に罠捕獲されたのはハシブトガラスの幼鳥のみであったため、警戒されないような工夫が必要。

##### d. 忌避効果のある音声による追い払い

ハシブトガラスの警戒声など。慣れさせない工夫が必要。

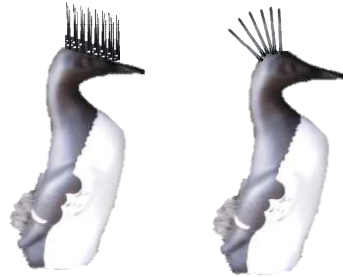


図4 デコイへのカラス対策実施例

- ・オオセグロカモメ：レーザーポインターでの追い払いを継続（5～8月の間、1～2週間に1回程度）。ただし、捕食状況に応じて捕獲を実施する場合あり。
- ・ドブネズミ：巣棚入口にネズミ返し設置。更にネズミ返し手前に向けてセンサーカメラを設置し、巣棚内への侵入状況と併せてモニタリング。

### ④繁殖地の周辺対策【継続】

#### (3) 飼育下繁殖（傷病個体の受け入れ体制構築）

- ・葛西臨海水族園等の動物園水族館と連携し、傷病個体の受け入れ体制構築に向けた検討継続。

#### (4) 普及啓発【継続】

#### (5) 連携の確保【継続】

【ご参考】「ウミガラス保護増殖事業ロードマップ」（令和4年4月策定） 行程表

		2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027～2031 (R9～13)	実施機関等	
生息状況等の把握	飛来・繁殖状況の把握		飛来状況・繁殖状況のモニタリング ※手法は随時改良、範囲は随時拡大					環境省 ※地域住民と協力	
	生態・動態の把握		航路センサスによる海上のモニタリング					環境省・研究機関	
			足環及びデータロガー等の装着に向けた検討 ※実施可能と判断された場合は速やかに実施					環境省・動物園水族館・研究機関	
			果臖内残渣の遺伝子解析					動物園水族館・研究機関・環境省	
			卵の色・模様の特徴解析に向けた検討					動物園水族館・環境省	
			飼育下個体からの情報収集					動物園水族館	
繁殖環境の維持・改善	繁殖環境の整備		中央果臖の再整備 ※飛来・繁殖状況に合わせたデコイ再配置・撤去等					環境省	
		左側果臖の整備内容検討	左側果臖の整備実施	左側果臖の再整備 ※飛来・繁殖状況に合わせたデコイ再配置等				環境省	
			右側果臖の整備の必要性検討 ※必要に応じて整備実施					環境省	
	誘引対策		音声装置の稼働 ※音声は随時改良					動物園水族館・環境省	
			デコイの設置 ※設置場所やデコイは随時改良					動物園水族館・環境省	
	捕食者対策	ハシブトガラス		ウミガラスの卵・雛の捕食状況のモニタリング					環境省
				エアライフル・巣落ちによる捕獲 ※モニタリング結果に応じて捕獲圧強化					環境省
		オオセグロカモメ		ウミガラスの卵・雛の捕食状況のモニタリング ※モニタリング結果に応じて捕獲検討・実施					環境省・研究機関
		ドブネズミ		赤岩対岸果臖におけるモニタリング ※必要に応じて対策実施					環境省
	繁殖地の周辺対策		繁殖地周辺への不用意な接近の予防・監視					環境省 ※地域住民と協力	
採餌範囲における情報収集及び保護対策検討		混獲状況の情報収集					NGO・研究機関・動物園水族館・羽幌シーバードフレンドリー推進協議会・羽幌町・環境省 ※地域住民（漁業関係者）と協力		
		混獲回避策の導入に向けた検討 ※効果的な混獲回避策は随時導入							
飼育下繁殖		傷病個体の受け入れ体制構築 ※複数の終生飼養個体を飼養することとなった場合は、飼育下繁殖への活用検討					環境省・動物園水族館		
普及啓発		インターネット等を活用した情報発信					羽幌町・環境省・動物園水族館		
		島民への普及啓発					環境省 ※地域住民への協力依頼		
		現地での普及啓発					環境省 ※地域住民（観光関係者）と協力		
		北海道海鳥センター・動物園水族館等を活用した普及啓発					羽幌町・動物園水族館・環境省・研究機関		
		ウミガラスを活用した環境教育					羽幌シーバードフレンドリー推進協議会・環境省・研究機関		
連携の確保		連携の強化					環境省・羽幌町・研究機関・動物園水族館・NGO・羽幌シーバードフレンドリー推進協議会・地域住民		
中間評価・次期計画策定					中間評価 2027年度以降の 取組み方針決定		次期 計画 策定		